

## 機関が取り組む共同研究から見える産学官連携(第2報) ～地域における北見工業大学の役割～

○内島典子\*、豊田健司\*\*、鞘師 守\*

(\*北見工業大学社会連携推進センター、\*\*北見工業大学工学部・現北海道警察本部)

### 1. はじめに

近年、産学官連携の活動を評価し、将来に向けた活動の見直しや改善を目指す試みが数多く見られるようになった<sup>1)</sup>。その一方で、産学官連携活動そのものあるいはその体制や運営など、活動の質的な水準を評価することは必ずしも一般的ではない<sup>2)</sup>。例えば代表的な産学官連携活動の一つである共同研究では、それらの件数や研究費など、定量的な要素を産学官連携活動の評価指標として取り上げている例が多い。しかし、それらを質的に評価している例は少ない。

北見工業大学では、平成8年度から22年度までの15年間に行われた全共同研究を対象とし、共同研究パートナーへのアンケート調査<sup>3-5)</sup>を実施している。この調査では、学外のパートナーに対し共同研究のきっかけや、研究成果と大学の研究・事務対応に関する満足度、共同研究後の成果活用状況などの情報を得るとともに、自由記述によるコメントを得ている。筆者らは、これらの調査結果を活用し、共同研究実績から見た産学官連携活動の質的な評価について検討している<sup>6)</sup>。

本報告では、北見工業大学が位置するオホーツク総合振興局、北見市を中心とした近隣市町村における北見工業大学の産学官連携活動の状況について、共同研究実績から分析を行った。

### 2. 方法

北見工業大学が位置するオホーツク総合振興局は18市町村より構成される(以下、オホーツク圏)(図1.)。これらの市町村に所在する産業界や自治体などと北見工業大学との共同研究について分析を行った。1)件数、2)地域別分布、3)業種別分布、4)リピート率などを分析項目とした。

### 3. 結果と考察

図2. に15年間の地域別(オホーツク圏、北海道内(以下道内)、北海道外(以下、道外))共同研究件数推移を示す。道外との共同研究は増加している。しかし、対象とした15年間の各年度におけるオホーツク圏を含む道内との共同研究の割合は平均して約7割を占めており、特にオホーツク圏との共同研究は約5割を占めていた。また、オホーツク圏との共同研究は、18市町村中、10市町に所在する企業・行政等と実施していた(図3.)。北見市を中心とした近隣市町村では、共同研究が盛んに行われていることが明らかとなった。さらに、北見工業大学は、北見市と継続的に共同研究を行っており、共同研究件数についても、その他の市町村に較べ多いことが示された。以上の共同研究実績の解析により、北見工業大学はオホーツク圏との共同研究を盛んに行っており、地域との関係性が高く、地域に密着した活動をしていることが確認された。



図1. オホーツク圏\*  
(オホーツク総合振興局、18市町村)  
\*オホーツク総合振興局ホームページより転載

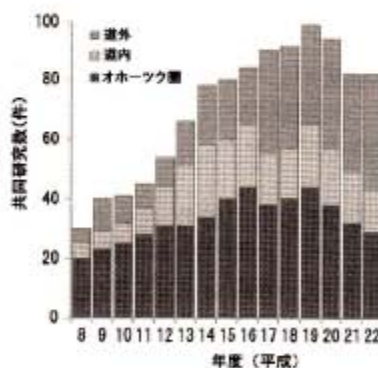


図2. 北見工業大学の地域別共同研究件数の推移

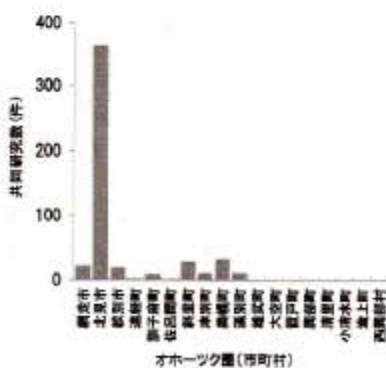


図3. 北見工業大学のオホーツク圏内市町村別の共同研究件数(平成8年～平成22年、15年間の総件数)

1)例えば、鞘師守、内島典子、月山盛夫:「北見工業大学における産学官連携活動と広域の量的な対応の解析」, 産学連携学会第10回大会講演予稿集(2012)

2)内島典子:「産学連携の現状に対する課題認識—産学連携の長い若手従事者の立場から—」, 産学連携学 Vol.9 (2012), No.1, 27.

3)株式会社北海道二十一世紀総合研究所:「実績に基づく北見工業大学有用技術マップ作成に関する調査」報告書, 2003.

4)株式会社北海道二十一世紀総合研究所:「実績に基づく北見工業大学有用技術マップ作成に関する調査」報告書, 2007.

5)北見工業大学共同研究に関する外部評価ワーキンググループ:「実績に基づく北見工業大学社会連携推進センターの活動に関する調査」報告書, 2013.

6)鞘師守、内島典子:「機関が取り組む共同研究から見える産学官連携(第1報)～北見工業大学における15年間の共同研究データ解析」, 産学連携学会第11回大会講演予稿集(2013)